

## 資料配布の場所

1. 国土交通記者会
  2. 国土交通省建設専門紙記者会
  3. 国土交通省交通運輸記者会
  4. 筑波研究学園都市記者会
  5. 横須賀市政記者クラブ
- 平成28年11月1日同時配布



平成28年11月1日  
国土技術政策総合研究所

## 国総研講演会(12月8日開催)の受付開始！ ～特別講演・セッションの主テーマは熊本地震災害～

- ・国総研は、12月8日(木)に「国総研講演会」を開催します。
- ・特別講演は、東京大学 久保哲夫名誉教授に「過年の地震被害に重ねる2016年熊本地震による建築物被害」と題してご講演いただくとともに、特別セッションとして「既往の災害からの知見と経験を踏まえた、国総研の災害活動・復旧復興技術支援」を設定します。
- ・また、「生産性向上」、「維持管理・競争力強化」、「防災・減災」の3つの一般セッションを設定し、最前線の研究成果等を講演します。

1. 日時：平成28年12月8日(木)10:15～17:05(開場 10:00)
2. 場所：日本消防会館 ニッショーホール(東京都港区虎ノ門 2-9-16)
3. プログラム：詳細は別添資料参照
  - ①特別講演 (13:15～14:15)  
「過年の地震被害に重ねる2016年熊本地震による建築物被害」  
久保哲夫 東京大学名誉教授
  - ②一般講演 (10:30～12:15、14:15～17:00)
    - 1)特別セッション 4講演 (14:15～16:00)  
「既往の災害からの知見と経験を踏まえた、国総研の災害活動・復旧復興技術支援」  
「国総研の災害活動・復旧復興技術支援」など
    - 2)一般セッション 9講演 (10:30～12:15、16:15～17:00)  
「生産性向上」、「維持管理・競争力強化」、「防災減災」  
「建設生産システムのイノベーションに向けて」など
4. 参加申込み：入場無料。定員700名(申し込み先着順)  
「国総研」のホームページからお申込みください。  
URL) <http://www.nilim.go.jp/lab/bbg/kouenkai/kouenkai2016/kouenkai2016.htm>
5. 報道機関の皆様へ：  
取材ご希望の方は、事前に上記「国総研」のホームページより参加申込みをお願いします。

### 【問い合わせ先】

国土交通省国土技術政策総合研究所 企画部 企画課 主任研究官 長屋、研究官 馬場  
TEL:029-864-7619 FAX:029-864-1527 E-Mail:kouenkai2016@nilim.go.jp

「平成28年度国総研講演会」プログラム

1. 日 時： 平成28年12月8日（木）10：15～17：05（開場10：00）  
 2. 場 所： ニッショーホール（東京都港区虎ノ門2-9-16）

時間	所属	氏名	タイトル	概要
10:15 ~ 10:25	所長	藤田 光一		開会の挨拶
セッション1「生産性向上～ICTによるイノベーション～」				
10:30 ~ 10:45	社会資本マネジメント研究センター	センター長 松井 健一	建設生産システムのイノベーションに向けて	i-Construction、CIM、民間企業が有する優れた技術力を活かす入札契約方式など調査・測量から設計、施工、検査、維持管理・更新までの全ての建設生産プロセスにおいて生産性向上を目指す研究の動向について紹介する。
10:45 ~ 11:00	都市研究部	部長 佐藤 研一	都市の生産性向上に資するコンパクトシティの形成に向けた研究	少子高齢化が進む中で、都市における生産性向上は大きな課題となっている。ここでは、子育て世帯や高齢者向けの生活支援機能配置計画、ICT技術等を活用した都市交通計画の手法等に関する研究開発の動向を紹介する。
11:00 ~ 11:15	道路交通研究部	部長 岡 邦彦	IT技術による賢い道路の利活用に向けた研究	我が国の生産性向上に資する賢い道路の利活用に向けた取組が期待されている。ETC2.0プローブデータを活用して渋滞の要因を分析する手法や安全対策の効果を計測する手法と今後の更なる可能性について紹介する。
11:15 ~ 11:30	休憩（15分）			
セッション2「維持管理・競争力強化」				
11:30 ~ 11:45	空港研究部	部長 谷川 勇二	空港施設の維持管理の高度化に向けて	航空機の安全運航のため空港施設のより高いレベルの維持管理が求められている。適切な維持管理のために必要な点検、修繕等の技術的課題への対応や、維持管理に関する情報蓄積などの取組状況について紹介する。
11:45 ~ 12:00	港湾研究部	部長 渡部 富博	港湾の技術基準に関わる最近の取り組み	平成19年改訂の港湾の技術基準については、防災・減災、国際競争力強化などその後の各種要請に対応すべくその検討を進めてきているほか、我が国基準の国際展開についても検討を進めている。その取り組み状況を紹介する。
12:00 ~ 12:15	建築研究部	建築新技術統括研究官 鹿毛 忠継	国総研における建築材料・生産分野の研究動向と今後の展望	国総研の建築材料・生産分野では多様な建築材料を有効に利用するために必要となる品質基準・試験方法、および使用規準や供用段階における各種性能の確保及び評価技術、改修手法、改修計画手法の整備等を進めている。近年の研究活動の紹介および今後の展望を述べる。
12:15 ~ 13:15	休憩（60分）			
特別講演				
13:15 ~ 14:15	東京大学名誉教授	久保 哲夫	特別講演「過年の地震被害に重ねる2016年熊本地震による建築物被害」	
特別セッション：「既往の災害からの知見と経験とを踏まえた、国総研の災害活動・復旧復興技術支援」				
14:15 ~ 14:45	住宅研究部	部長 福山 洋	建築物の地震後の継続使用性-現状と課題-	熊本地震では、建築物の倒壊等は適切に防止されたが、部材の損傷等により、庁舎、避難所、共同住宅等で地震後継続的に使用できなくなる事例が確認された。これについて、現状の課題と今後の方向性を取りまとめる。
14:45 ~ 15:15	道路構造物研究部	部長 木村 嘉富	熊本地震による道路構造物の被害と復旧への技術的支援	本年4月に発生した熊本地震では道路構造物においても甚大な被害が生じた。国総研では地震発生直後から土木研究所と連携して現地調査を行うと共に、技術基準類の確認、被災構造物の復旧への技術的支援を行ってきた。これらの活動について紹介する。
15:15 ~ 15:45	河川研究部	部長 天野 邦彦	平成28年に発生した水害の概要と国総研の対応	平成28年は、台風の上陸に伴い、北海道や岩手県などで多くの水害が発生した。これら水害を引き起こした降雨、発生場所の流域特性、被災特性について概観するとともに、国総研における対応（復旧に向けた技術支援）について報告する。
15:45 ~ 16:00	熊本地震災害対策推進室	技術統括官 喜安 和秀	国総研の災害活動・復旧復興技術支援	国総研の災害活動支援について、過去の実績を交えて紹介する。また、現在、熊本地震の復旧・復興に向けた技術的な支援を行う「熊本地震災害対策推進室」に関する具体的な取り組み、国総研が果たす役割を紹介する。
16:00 ~ 16:15	休憩（15分）			
セッション3「防災・減災」				
16:15 ~ 16:30	下水道研究部	部長 榊原 隆	都市型浸水対策の最前線-ICTを活用した技術開発とその展望-	頻発する都市型浸水対策に関する最新の研究成果として広島市江波地区を対象としたICTを活用した技術開発とその展望を述べる。
16:30 ~ 16:45	沿岸海洋・防災研究部	部長 鈴木 武	津波に対する沿岸域の環境・防災対応	東北地方太平洋沖地震津波は沿岸域の施設破壊等を通して沿岸域の環境・防災面に課題を浮かび上がらせた。海水交換を改善した形での津波防波堤の再建、放射線物質への対応等である。それらに関する研究の取り組みを紹介する。
16:45 ~ 17:00	土砂災害研究部	部長 岡本 敦	リアルタイム観測・監視データを活用した土砂災害の発生予測	土砂災害は豪雨、地震等に伴い突発的に発生するが、発生時期、規模、範囲の正確な予測は困難である。流砂水文観測、衛星等のリアルタイムデータを活用した土砂災害の発生予測に関する最近の研究動向等を紹介する。
17:00 ~ 17:05	副所長	三宅 光一		閉会の挨拶